

都市づくりの方向性・基本理念

都市づくりの方向性

<ポイント>

- 都市づくりの課題等を踏まえると、今後も人口減少を前提としながら長期的視点を持った「いかす・まもる」の考え方は必要不可欠。
- 今後も都市の魅力をさらに高める「磨く」要素が重要であることから、現行計画の考え方を引継ぎ、人口減少下の社会情勢であっても、将来にわたって持続可能な都市づくりを進める。

<基本的な考え方>

本市を取り巻く社会・経済情勢が大きく変化している中、本市が抱える多様な課題に対応するためには、これまでの「いかす・まもる」の考え方を継続しつつも、新たに生まれつつある「対流」を効果的に活用し、発展性のある「持続可能な都市づくり」を進めていくことが重要であり、そのためには、都市機能や快適な生活環境など、本市の個性を“磨く”ことにより充実させ、魅力を高めていくことが必要です。

これらのことから、都市づくりの方向性を「個性を磨く 持続可能な都市づくり」と設定し、多様な都市づくりの課題の解決を図るとともに、「暮らしたくなる」「訪れたくなる」「投資したくなる」都市として積極的に選ばれるよう、新たな成長力を生み出す取組を推進します。

個性を磨く 持続可能な都市づくり



都市づくりの基本理念

<ポイント>

- 「住みたい」「住み続けたい」は、意向調査結果を見ても不変の要素。
- 総合計画等の上位計画の方向性を踏まえつつ、都市づくりの方向性を加味し、現行計画の考え方を引継ぎ設定。

<基本的な考え方>

霊峰富士の麓に位置する本市は、温暖な気候や豊富な地下水、また肥沃な大地など、富士山の豊かな恵みのもとに生活が成り立ち、今日まで大きな発展を遂げてきました。

本市が今後も都市として持続し、発展するためには、社会・経済情勢や動向が大きく変化しても、そこに人が住み続け、様々な都市活動が行われていることが大前提となります。

これには、輝き続ける富士山とともに、本市が有する個性や魅力をさらに磨き上げ、都市の新たな価値を見出しながら、これまで以上に誇りと愛着を持って安全・安心・快適に暮らし続けることができる効果的な取組に挑戦するなど、本市に関係する多くの方が「住みたい・住み続けたい」と確信できる都市づくりへの持続的な追求が必要です。

このため、都市づくりの基本理念を「富士山とともに輝き 誰もが住みたい・住み続けたいと思える都市づくり」と設定します。

富士山とともに輝き 誰もが住みたい・住み続けたいと思える都市づくり

社会・経済情勢の変化

- (1) コンパクト・プラス・ネットワークの推進
- 人口減少下の市街地拡散による生活サービス施設の撤退や公共交通の縮小・廃止
 - 立地適正化計画制度の創設
 - 面的な公共交通ネットワークを再構築する仕組みの創設

- (2) 災害の激甚化・頻発化に 対応した国土の強靱化
- 地震、土砂災害、豪雨洪水等の様々な災害の激甚化・頻発化
 - 防災・減災に資する国土強靱化地域計画の全国推進

- (3) SDGs (持続可能な 開発目標) の達成
- 誰一人取り残さないための 17 のゴールと 169 のターゲット
 - 環境、社会、経済の価値を創造する環境未来都市構想の全国推進

- (4) カーボンニュートラルの実現
- R32(2050)カーボンニュートラル実現
 - 温室効果ガス排出削減対策
 - 都市構造の低炭素化への取組

- (5) 新型コロナがもたらす ニュー・ノーマルへの対応
- 都市という場の重要性や都市機能集積の必要性は不変
 - ウォカブルなまちづくり、ゆとりある緑とオープンスペースの充実

- (6) 高速交通ネットワークの発達
- リニア中央新幹線の整備によるスーパー・メガリージョンの形成
 - ひかり・こだま型を重視した東海道新幹線に変化する可能性
 - 交流人口増加、滞在時間延長、物流効率化が期待

- (7) デジタル社会の進展
- 国のDX推進の動き
 - MaaS や 3D都市モデルなど、まちづくりへのDXの活用

富士市の様態

- (1) 人口・世帯等
- 人口：減少
 - 年少人口及び生産年齢人口：減少
 - 老年人口：増加
 - 人口動態：転入超過傾向
 - 昼間人口<夜間人口
 - 世帯数：増加
 - 単独世帯（特に高齢者）：増加

- (2) 産業
- 出荷額：増加、事業所数：減少
 - 商店数、従業者数、販売額：増加
 - 第二次産業就業者割合：減少

- (3) 土地利用
- 富士山フロント工業団地、第二東名IC周辺、新富士駅南で開発事業中
 - 市街化区域内農地面積は全国 21 番目
 - 住宅総数、空き家戸数：増加
 - DID 人口密度は 37.8 人/ha（県内で 3 番目に低い）

- (4) 都市交通
- 充実した広域交通網
 - 移動手段の 74% は自動車
 - 公共交通人口カバー率は 81%
 - デマンドタクシー以外の公共交通利用者数は大きく減少

- (5) 都市環境
- 富士山や富士川等の豊かな自然環境
 - 都市計画公園供用率は 48%
 - 都市計画緑地供用率は 27%
 - 汚水人口普及率は 90.7%
 - 温室効果ガス排出量は年々減少

- (6) 都市防災
- 津波浸水想定区域（田子の浦港周辺）
 - 3.0m 以上の河川浸水想定区域（小潤井川以外の河川）
 - 土砂災害（特別）警戒区域（大淵地区等、富士川沿川等）
 - 不適正な土砂埋立て地

- (7) 都市景観
- 富士山の眺望等
 - 景観重要樹木、景観重要公共施設
 - 景観形成重点候補地区、景観形成型広告整備地区

- (8) 財政
- 新環境クリーンセンター建設に伴う公債費の増加、厳しい財政状況

市民ニーズ (市民意向調査結果)

- (1) 住みやすさと継続居住意向
- 富士市の住みやすさ
 - 住みやすい (81.3%)
 - 住みにくい (16.3%)

- 継続居住意向
 - 住み続けたい (66.8%)
 - 住み続けたくない (6.7%)
 - わからない (26.6%)

- 富士市の住みやすさの要因
 - 住み慣れている (68.2%)
 - 住環境が良い (41.7%)

- 富士市の住みにくさの要因
 - 交通の利便性が悪い (70.5%)
 - 買い物場所やレクリエーション施設が少ない (57.7%)

(2) 新型コロナ感染拡大に伴う生活様式の変化等

増加傾向	<ul style="list-style-type: none"> 自宅や自宅周辺で過ごす時間 自家用車を利用する頻度
減少傾向	<ul style="list-style-type: none"> 市外に出かける機会 富士駅周辺等まちなかに行く機会 大規模な商業施設・ショッピングセンター等を利用する機会

(3) 将来の富士市

- どんな都市になってほしいか？
 - 自然災害に強く、犯罪が少ない安全・安心な都市 (56.5%)
 - 買い物が容易で様々な公共サービスが受けられる、生活利便性の高い都市 (54.3%)
 - 歩きやすく交通機関の利便性も高い、移動しやすい都市 (43.1%)

- 魅力を感じる地域とは？
 - 日常生活サービス施設（スーパーマーケットや病院等）が充実している地域 (74.2%)
 - 災害の危険が少ないか、災害に十分に備え安心して暮らせる地域 (60.6%)
 - 公共交通の利便性が高い地域 (56.7%)

(4) 今後特に重要な取組

- 自然災害に強い、安全・安心な住環境の形成促進 など

